

有限会社 レークヒル牧場

■ 放牧酪農から 6 次産業まで！年間来場者は 15 万人！



〈法人の概要〉

所在地：〒049-5724 洞爺湖町花和 130 番地

代表者：代表取締役 塩野谷幸一

構成員：2 名（構成農家 1 戸）

役員：2 名 常時雇用者：10 名

設立：昭和 51 年 2 月 資本金：600 万円

事業内容：酪農／乳製品加工販売、飲食店舗、酪農体験、フットパス

乳用経産牛 54 頭、乳用育成牛 26 頭、年間生乳生産量 483.9t (H21 年)

経営面積：62ha

売上高：1 億 6,000 万円 (H21 年)

電話：0142-83-3372 FAX：0142-83-3372

URL：<http://www.lake-hill.com/>

E-mail：shionoya@lake-hill.com

〈法人のあゆみ〉

- | | |
|---------|-----------------------------------------------------------------------|
| 昭和 51 年 | 有限会社レークヒル牧場を設立（構成員 4 名） |
| 平成 3 年 | イタリア・ミラノにてアイスクリーム製造学を学び牧場敷地内に工場建設 |
| 4 年 | アイスクリーム製造販売を開始 |
| 11 年 | 集約的放牧酪農を開始 |
| 13 年 | 酪農教育ファーム認証を受け酪農体験を開始、ホームページを開設 |
| 20 年 | 「第 8 回放牧サミット」現地検討会場 |
| 21 年 | フットパスを開始 |
| 22 年 | 「平成 21 年度草づくりコンクール」知事賞（最高位）受賞
「第 14 回全国草地畜産コンクール」農林水産生産局長賞（準最高位）受賞 |

〈設立の経緯・設立後の状況〉

- ・昭和 50 年、先代が知り合いの経営コンサルタントに農業生産法人の設立を勧められたことがきっかけで、経営の合理化による農業所得の向上を目指して、昭和 51 年 2 月に酪農専門の 1 戸 1 法人を設立した。
- ・法人を設立するまで経営記帳をしていなかったことや、設立に際しての就業規則の作成など難しい点はあったものの、経営コンサルタントに相談し解決するなど、設立までに約 1 年を要し、特に法人設立の諸手続き（出資等）に最も時間を要した。
- ・平成 3 年には、乳製品の加工・販売に取り組むべく、イタリア・ミラノでアイスクリームの製造学を学び、その後、牧場敷地内に工場を建設。翌年の平成 4 年にアイスクリームを製造・販売するなど、経営の多角化にいち早く取り組んでいる。
- ・平成 11 年からは放牧を開始。一般的に乳量が減少すると言われている粗放牧ではなく、集約的な放牧酪農を構築することで高泌乳牛飼養を実現しつつも分娩間隔の短縮を達成している。
- ・平成 13 年には、酪農体験などを通じて教育活動を行う酪農教育ファーム認証を受け、現在では年間 2,000 人を受け入れている。
- ・ファームレストランも経営し、平成 21 年から始めたフットパスを含めて来訪者は年間 15 万人を数える。
- ・これらの取組みが放牧酪農の先進事例として高く評価され、「平成 21 年度草づくりコンクール」知事賞、「第 14 回全国草地畜産コンクール」農林水産生産局長賞を受賞。

〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・加工部門では、商品開発を常に行っているが、必ずしも利益につながるとはいえず、試行錯誤の連続である。このためにお客様のニーズを的確に把握することを心がけている。

〈法人経営のメリット・デメリット〉

- ・経営収支の数値が見え、各年の比較ができ、今後の対応策をとりやすくなった。
- ・その反面、収益が少なくなった場合には、融資条件が不利にならないかと心配する。

〈法人が継続するためのポイント〉

- ・農業生産法人組織内にしっかりとした会計担当者があることが大切。
- ・牧場へ訪れてくれるお客様や製品を購入して頂くお客様のニーズを常に把握すること。



〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・社会の信頼を得たり、地域の雇用創出に貢献したりするためには、法人化は最適な手段だと思います。

〈特徴的な活動や取り組み〉

- ・「よい土、よい草、よい牛」を酪農の基本として、「治療よりも予防」に力を入れ、健康な牛から生産された生乳を加工し、「お客様に美味しいものを提供すること」を心がけている。
- ・集約的放牧酪農により高泌乳牛の飼養と分娩期間の短縮の両立を実現している。
- ・いち早く農業の6次産業化に取り組み、乳製品加工販売、ファームレストラン、酪農体験、フットパスを手掛けている。また、酪農体験などを通じて、消費者との交流を図っている。
- ・乳製品の通信販売では、手作りの「牧場新聞」を添えて消費者から大変好評を得ており、楽しみにしているリピーターも多い。

〈経営目標と将来の展望〉

- ・経営者の世代交代に近づいているため、次代につながる経営をしたい。

〈視察等の受入〉

詳細については要相談。

連絡先：0142-83-3372（担当：代表取締役 塩野谷幸一）